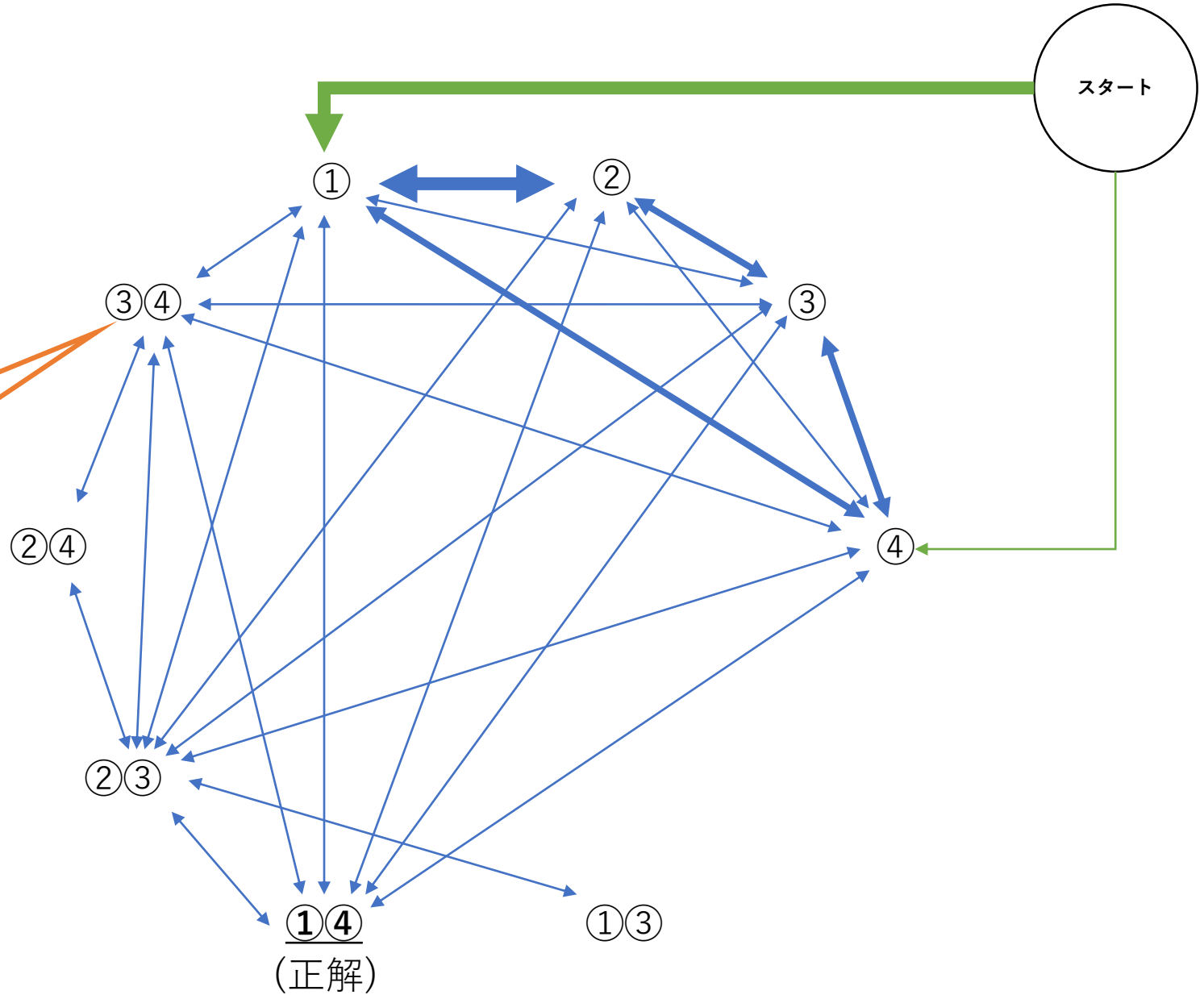
ある問題に対する学習者の探索活動を可視化した図

矢印の太さは太ければより多くの学習者が行き来した選択肢で、細ければあまり行われなかった探索活動である.



このように正解ではない①と②という選択肢の間で学習者が悩んでいたことが分かる

このような探索活動の偏りに注目し，この選択肢間で悩む原因を探ることが可能